科目名	関係法規Ⅱ		
担当教員	柏　静子 鳴海　繭花		
実務経験			
対象学年	講義時期	単位数	時間数
3年	後期	1	30

履修目的・授業概要

看護を取り巻く関係法規を学び、看護に役立てる基盤とする。2年次に学習した法規についても、改正等を学ぶ。

到達目標

1．国民の健康の保持・増進と法の関連がわかる

2．医薬品・医療機器の取り扱いの法的根拠がわかる

3．国民の生活環境の維持・改善と法の関連がわかる

4．社会の変化に対応するための社会の基盤に対する法律がわかる

授業の形式・方法

講義

各講義で小テストを実施する

成績評価の方法・基準

筆記試験（50%）小テスト（50%）

＊不合格者は再試験とし、再評価

学生へのメッセージ

＜教科書・参考書＞

書名	著者名	発行所
系統看護学講座　専門基礎分野　健康支援と社会保障制度[4]　看護関係法令	森山幹夫	医学書院
（参）看護六法	看護行政研究会	新日本法規

コマ	履修内容	教員
1	看護に必要な法令の理解	柏
2	保健衛生法 共通保険法	柏
3	保健衛生法 分野別保険法	柏
4	保健衛生法 感染症に関する法/食品に関する法	柏
5	薬務法 薬事一般に関する法律	柏
6	薬務法 薬剤被害者の救済/麻薬・毒などの法	柏
7	社会保険法 医療・介護の費用保障/年金	柏
8	看護法 法改正・今後の課題	鳴海
9	医事法 法改正・今後の課題	鳴海
10	保健衛生法（1） 法改正・今後の課題	鳴海
11	保健衛生法（2）・薬務法 法改正・今後の課題	鳴海
12	社会保険法 法改正・今後の課題	鳴海
13	福祉法 法改正・今後の課題	鳴海
14	労働法・環境法等 法改正・今後の改正予定	鳴海
15	履修認定	柏 鳴海

科目名	地域・在宅看護方法論Ⅳ		
担当教員	谷　真弓 鳴海　繭花 福原　緑		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
3年	前期	1	30

履修目的・授業概要

在宅療養する対象の健康状態に応じた看護と各社会資源を活用をしながら療養生活を送る在宅療養者の実際が理解できる

到達目標

1.在宅看護介入時期別に必要な看護が理解できる
2.慢性疾患を持つ患者が在宅生活を送るため必要な看護が　理解できる
3.障害を持ち介護保険を受けながら在宅生活する対象の看護が理解できる
4.認知症を持つ施設療養者の在宅看護が理解できる
5.精神疾患を抱え日常生活のサポートが必要な対象の看護が理解できる
6.在宅で生活をしている医療的ケア児とその家族に対する必要な看護が理解できる
7.在宅における終末期の看護が理解できる

授業の形式・方法

講義

成績評価の方法・基準

筆記試験（100%）

学生へのメッセージ

これまで地域・在宅看護論で学習したことを、様々な状況の療養者へのケアに置き換え考えていきます。

各事例が、現行の社会資源をどのように利用し住み慣れた地域での暮らしを送っているかをイメージできるように理解を深めていきましょう。まだ理解が不十分な部分があった場合は今までの履修内容を再度振り返ってみましょう。

＜教科書・参考書＞

書名	著者名	発行所
系統看護学講座 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護の実践	河原加代子 他	医学書院

コマ	履修内容	教員
1	1.療養者の在宅看護介入時期別の特徴 1)健康な時期の看護　2)外来受診期における看護 3)入院時の看護　4)在宅療養準備期の看護	谷
2	5)在宅療養移行期の看護　6)在宅安定期の看護 7)急性増悪期の看護　8)終末期の看護 9)在宅療養終了時の看護	谷
3	2.慢性閉塞性肺疾患の療養者の事例展開①(COPD) 1)HOTを受ける患者への訪問看護初期の事例展開	谷
4	慢性閉塞性肺疾患の療養者の事例展開②(COPD)	谷
5	3.脳卒中の療養者の事例展開①(脳梗塞後遺症) 1)リハ病院退院後の在宅看護導入 2)介護保険をはじめとした各社会資源の活用	谷
6	脳卒中の療養者の事例展開②(脳梗塞後遺症)	谷
7	4.認知症高齢者の事例展開①(レビー小体型認知症) 1)施設入所するための準備　2)入所後の展開	谷
8	認知症高齢者の事例展開②(レビー小体型認知症)	谷
9	5.統合失調症の療養者の事例展開①(統合失調症) 1)療養者・家族の希望する暮らしや医療・介護	鳴海
10	統合失調症の療養者の事例展開②(統合失調症)	鳴海
11	6.医療的ケア児の事例展開① 1)人工呼吸器装着児の在宅移行の支援 2)障害児の支援計画　3)親への対応	福原
12	医療的ケア児の事例展開②	福原
13	7.がん終末期の療養者の事例展開①(乳がん) 1)急性期病院から退院し、在宅訪問診療・訪問看護に切り替え、在宅での看取りをしたケース	鳴海
14	がん終末期の療養者の事例展開②(乳がん)	鳴海
15	履修認定	谷・福原 鳴海

科目名	地域・在宅看護方法論Ⅴ		
担当教員	谷　真弓		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
3年	前期	1	15

履修目的・授業概要

事例展開を通して在宅看護の特徴が理解できる。

到達目標

在宅療養者と家族の状況に応じた看護を展開し、具体的な援助方法を理解する。

授業の形式・方法

講義、個人ワーク

成績評価の方法・基準

筆記試験(60点)、提出物(40%)
＊不合格者は再試験とし、再評価

学生へのメッセージ

訪問看護では、在宅療養生活への希望を重視したアセスメントを行い、主体である療養者と家族の意向に沿った看護援助が行われます。ALS（筋萎縮性側索硬化症）を患い在宅療養を行っている療養者のケースを用いて、訪問看護の介入を行う際のプロセスについて学んでいきます。

＜教科書・参考書＞

書名	著者名	発行所
系統看護学講座 地域・在宅看護の実践	河原加代子	医学書院
系統看護学講座 家族看護学	上別府圭子	医学書院

コマ	履修内容	教員
1	1.ALSについての概要説明、事例紹介 個人ワーク（フェイスシート1・2）	谷
2	2.ALSについて（社会資源の確認） エコマップについて　個人ワーク（例題と事例）	谷
3	3.アセスメントの考え方 個人ワーク（アセスメントワークシート）	谷
4	4.個人ワーク（アセスメントワークシート） 看護問題の抽出	谷
5	5.フェイスシート・アセスメントシート・ プロブレムリスト修正	谷
6	6.看護計画立案、ケアプランとの整合性を考える 個人ワーク（看護計画立案）	谷
7	7.個人ワーク（看護計画立案）	谷
8	8.確認テスト ALS療養者の生活の実際、まとめ	谷
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	看護管理と国際・災害看護		
担当教員	柏　靜子 山尾　学		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
3年	全期	1	30

履修目的・授業概要

看護活動を円滑にするための看護管理のあり方を理解する。また、災害看護や看護の国際貢献に関する基本的な理解を深める

到達目標

1．看護管理の基本的知識を理解する

2．災害看護の基本的知識を理解する

3．国際看護の基本的知識、および諸外国における今後の課題を理解する。

授業の形式・方法

講義　演習

成績評価の方法・基準

筆記試験（100%）

学生へのメッセージ

＜教科書・参考書＞

書名	著者名	発行所
系統看護学講座　専門分野看護管理	上泉和子	医学書院
系統看護学講座専門分野 災害看護・国際看護	竹下喜久子	医学書院

コマ	履修内容	教員
1	看護管理/看護とマネジメント マネジメントとは	柏
2	看護管理/看護ケアのマネジメント 看護職の機能/患者の権利の尊重	柏
3	看護管理/看護ケアのマネジメント 安全管理	柏
4	看護管理/看護ケアのマネジメント チーム医療・看護業務の実践	柏
5	看護管理/看護職のキャリアマネジメント キャリア形成	柏
6	看護管理/看護職のキャリアマネジメント ﾀｲﾑﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ・ｽﾄﾚｽﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	柏
7	看護管理/看護サービスのマネジメント 人材・施設・物品・情報	柏
8	看護管理/看護サービスのマネジメント ﾘｽｸﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	柏
9	災害看護 災害看護の基礎知識・災害サイクルに応じた看護	山尾
10	災害看護 被災者特性に応じた災害看護	山尾
11	災害看護/地震災害看護の展開 GW演習　救護所内のレイアウト	山尾
12	看護の国際化 国際看護学とは・グルーバルヘルス	柏
13	看護の国際化 国際協力のしくみ・文化を考慮した看護	柏
14	看護の国際化 開発協力・国際救援と看護/今後の課題	柏
15	履修認定	山尾 柏

科目名	診療の補助技術における安全		
担当教員	坂井　聖康 畑中　亜希美		
実務経験	あり		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
3年	前期	1	30

履修目的・授業概要

医療の質と安全の確保に必要な思考と技術を講義、演習を通して、実践的に学ぶ。

到達目標

1．医療事故が起こる原因が理解できる

2．医療事故防止の考え方が理解できる

3．起こりやすい医療事故とその対策を理解できる

授業の形式・方法

講義　演習

成績評価の方法・基準

筆記試験（100%）

学生へのメッセージ

＜教科書・参考書＞

書名	著者名	発行所
系統看護学講座 専門分野医療安全	川村治子	医学書院

コマ	履修内容	教員
1	医療安全/ﾋｭｰﾏﾝｴﾗｰ・医療安全を学ぶ意義 医療事故・看護事故の構造/防止の考え方	坂井
2	医療安全とコミュニケーション 労働安全衛生上の事故防止	坂井
3	共通する間違いと発生要因 患者間違いの主な要因と防止	坂井
4	共通する間違いと発生要因 多重課題､ﾀｲﾑﾌﾟﾚｯｼｬｰ/新人の特徴	坂井
5	患者に投与する業務における事故防止 注射業務	畑中
6	患者に投与する業務における事故防止 注射業務に用いる機器	畑中
7	患者に投与する業務における事故防止 輸血・内服与薬・経管栄養業務	畑中
8	患者に投与する業務における事故防止 演習：事故事例から原因と対策を考える	畑中
9	患者に投与する業務における事故防止 演習：事故事例から原因と対策を考える	畑中
10	患者に投与する業務における事故防止 演習：事故事例から原因と対策を考える	畑中
11	チューブ類の観察・管理における事故防止 チューブ管理と事故防止	畑中
12	チューブ類の観察・管理における事故防止 主要なチューブの危険・自己抜去防止	畑中
13	療養上の世話の事故防止 看護師の介入下・非介入下での事故	坂井
14	療養上の世話の事故防止 転倒・転落防止/窒息・誤嚥/入浴中の事故	坂井
15	履修認定	坂井 畑中

科目名	臨床看護の実践		
担当教員	矢野　優子		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
3年	全期	1	30

履修目的・授業概要

複合課題を通して、知識と技術を統合した適切な判断を学び、自己の看護実践能力を養う。

到達目標

1．複数患者に対して優先順位を考えた行動計画が立案できる。
2．看護実践能力に応じ、メンバーと連携しながら状況に応じた看護ケアが実践できる。
3．複合課題の看護実践をとおして、自己の実践能力を考察できる。

授業の形式・方法

講義　演習

成績評価の方法・基準

筆記試験（70%）レポート（30%）

学生へのメッセージ

＜教科書・参考書＞

書名	著者名	発行所
系統看護学講座　専門分野　臨床看護総論	香春　知永	医学書院

コマ	履修内容	教員
1	多重課題の看護実践 多重課題における看護の視点	矢野
2	多重課題の看護実践 援助における根拠の明確化	矢野
3	多重課題の看護実践 援助を行うための行動計画の立案	矢野
4	多重課題の看護実践 状況設定に合わせた患者への援助①	矢野
5	状況設定に合わせた患者への援助②	矢野
6	状況設定に合わせた患者への援助③	矢野
7	複数患者への看護実践 割り込み状況の考え方と対処方法	矢野
8	複数患者への看護実践 ケアの優先順位を踏まえた計画の立案①	矢野
9	複数患者への看護実践 ケアの優先順位を踏まえた計画の立案②	矢野
10	複数患者に対するケアの実践①	矢野
11	複数患者に対するケアの実践②	矢野
12	複数患者に対するケアの実践③	矢野
13	複数患者に対するケアの実践④	矢野
14	看護技術の総合的評価の視点	矢野
15	履修認定	矢野

科目名	看護研究		
担当教員	坂井聖康		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
3年	全期	1	30

履修目的・授業概要

看護における研究の意義を学ぶ。グループで、研究主題の決定から研究発表までのプロセスを経験する。

到達目標

1．看護研究の意義・目的が理解できる

2．看護研究を進めるプロセスがわかる

3．他者に理解できるように研究内容を説明できる

授業の形式・方法

講義　演習　研究発表

成績評価の方法・基準

レポート（100%）

学生へのメッセージ

＜教科書・参考書＞

書名	著者名	発行所
系統看護学講座 別巻　看護研究	坂下玲子	医学書院

コマ	履修内容	教員
1	看護研究の基礎 看護研究とは	坂井
2	看護研究の基礎 看護研究の倫理的問題	坂井
3	看護研究の基礎 個人情報の保護	坂井
4	看護研究の実践 研究の進め方　オリエンテーション	坂井
5	看護研究の実践 研究主題の設定　演習　GW	坂井
6	看護研究の実践 研究関心・研究目的　演習 GW	坂井
7	看護研究の実践 文献検索　演習　GW	坂井
8	看護研究の実践 文献検討　演習　GW	坂井
9	看護研究の実践 研究論文の作成　演習　GW	坂井
10	看護研究の実践 研究論文の作成　演習　GW	坂井
11	看護研究の実践 研究論文の作成　演習　GW	坂井
12	看護研究の実践 研究論文の作成　演習　GW	坂井
13	看護研究の実践 抄録/抄録の作成　演習　GW	坂井
14	看護研究の実践 報告会	坂井
15	看護研究の実践 報告会	坂井